

「マルチ・スライド」「黒崎百年」紹介

このたび、「黒崎誕生百年を祝う会」の開催にあたって、映像と音楽で構成する近現代黒崎の歩みをみていただくこととし、「黒崎百年」村をおこし、町をつくった人びとのものがたり」と題するマルチ・スライドを制作しました。

村と町の発祥・江戸時代からの神社と寺・焼酎の伝承・庄屋の屋敷などの画面でまとめます。〈近代への出発〉

近代への出発として、「黒崎百年」の本体は、黒崎の先人が試みてきた六つの挑戦を取り上げて映像で語りかけることにしました。

「黒崎町史」の成果を一冊の本に止めず、視聴覚教材として活かしていき、子供たちにも郷土の先人の足跡にふれてもらおうとのねがいもありました。マルチ・スライドを日常の子供たちの授業でもみていただけるようにDVDとしてつくり直すことも考えているところです。

第一は、「治水へのみち」として、相次ぐ水害の状況を示すと共に中ノ口川堤防改築と大津分水工事実現に取り組んだ鷲尾政直ら黒崎有志の努力を語ります。

第四は、昭和期に入って生じた「農村恐慌」の危機を克服した先人の努力を取り上げました。その克服の道は、報徳運動の推進でした。各大字に報徳社がつくられ、提唱者として、宗村卯市が知られています。今も役場の前には、「あらしひのなき世造りを話合ひて譲るは高き人のみちかも」という報徳の教えが刻まれた石碑が建っています。

第二は、「自由民権運動」に参加し、遂に、国会の開設をもちとった山際七司を中心とする人々を紹介、山際七司の書や画などの映像は初めて公開されるものです。そして、その政治的系譜は、萩野左門はじめ岡田幸平、武田武夫三人の県議会議長を出した町の中に生きています。

第五は、黒崎の人々のくらしを支えてきた近代産業をおこしたことです。何よりも農民の田と畑での勤労の姿がおもとにありました。家族や地域一体となった共同の作業がおこなわれ、女性の働らく姿が中心にありました。「舟農業」から機械化農業へと農村の姿は大きく変化しました。大野の商店街も時代の進展に応じて発展への試みを続けてきました。農協(JA)や商工会は、産業発展の大きな原動力となってきました。

第六は、「教育立村」をかかげ、小学校や中学校の創立に大きな力を注いできました。定時制高校を早くから設置し、やがて、全日制高校の誘致にも成功しました。学校を卒業した多くの人々は、有為な人材として活躍してきましたが、日中戦争や

第三は、町村制下に成立した近代自治体として黒崎を名のる大きな村が誕生し、自治の営みが続けられてきたことです。消

防団や今から七〇年前に発刊された広報の伝統は今も受けつがれています。

太平洋戦争で三七〇人もの若者が戦死したことを忘れることはできません。

〈プロフィール〉

田園都市の創造への歩みを中心として、高度経済成長下、交通変革と共に都市化へと進み、人口・世帯の増大に伴い町制を施行して行く、新潟県で最も劇的変貌を遂げた黒崎の発展する姿を取り上げました。そして、新潟市への合併へのみちを選んだ人々が二十一世紀の新しい市民として、どのように進むべきか、考えてほしいのです。

このマルチ・スライドと同じ題名で小冊子を編集・発行し、広く町民の皆様へ頒布することにしています。十一月一日に発行されます「黒崎町史―通史編」と合わせて、ぜひともお読みいただき、黒崎の先人の英知と努力を学び、これからの進路について考えていただければ幸いです。皆様のご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。

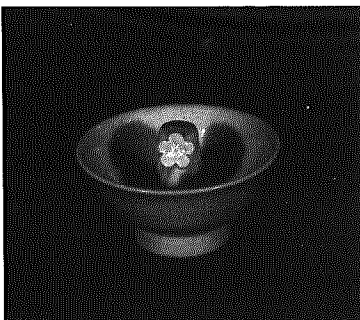
分度の盃

昭和初期からの農村恐慌の中、黒崎におこった報徳運動は、報徳の教えを説いた二宮尊徳の少年時代の姿、「二宮金次郎銅像」と共に知られてきました。

報徳とは、宇宙にあるすべての事物の「徳」のおかげで生きている。その「徳」にむくいる

分度(ぶんど)の盃(さかずき)は、あふれるほど(分度をこえて)そそぐと、下からこぼれてしまうというしかりになっていきます。分度を立てて生活すれば必ずよゆうができ、それは自分の子孫のために譲り、または、世の中の人のためにゆずる、としています。

報徳の教えは、経済と倫理の融合をめざそうとした考え方で、今の日本経済の状況からみても注目されるものです。ノーベル賞経済学者のセン氏も経済と倫理を軸とした学問を進めてきています。報徳運動を単に古い遅れた思想と決めつけることは正しいとはいえません。今も考えるべき意義を持つ思想です。



がんばっています 生涯学習

子供の時の気持ちに戻って

黒崎おやこ劇場 北上 裕史

おやこ劇場は年に4〜5回の演劇やコンサートを観賞することを主体として活動しています。(私達はこの観賞を例会と言っています。)この例会のレベルは、子供にも内容がわかり、大人が観ても自然とステージに引き込まれるものが多く、私がおやこ劇場に入ってからこの例会でも、人形劇団ひとみ座(ひよっこりひょうたん島の劇団)やわらび座、それに劇団風の子の「トキが滅びる時」(これは小学校の5、6年生以上の子でないとなんと難しいようでした。)等々、たくさんのおやこ劇場を観ましたが、それぞれに味わいがあり、子供と一緒に味わって、そして子供の時に戻ったように感動できるものでした。



みんなで遊ばんしょ!! (遊ばんしょは遊ぼうの方言です。)

私達の場合、こういう活動に参加するだけのつもりでおやこ劇場に入ってみましたが、入ったとたんに役員になったり、ついには運営の中心にさせられたり、トントン拍子に出世してしまいました。

おやこ劇場では、おやこまつり等の活動も行ってきました。こういう活動の中で子供が素直に育ち感動する心を持ってほしいと思います。

Advertisement for 'Sports Meeting' (スポーツ大会) featuring illustrations of children playing sports and text about a tournament held at the Daijinguin Shrine on November 15th.